

静岡大学 地歴教員養成講座 2018年9月22日(土)

教えない地理—毎日できるアクティブラーニング(北アメリカの地理を例に)

伊藤 智章(静岡県立裾野高等学校)

1. イン트로ダクション(15分) 新必修科目「地理総合」をめぐる現状と課題
2. 模擬授業 アメリカ地誌のグループワーク(30分)
3. まとめと展望(10分)

1. イン트로ダクション 新必修科目「地理総合」をめぐる現状と課題

(1) 不安視される「地理必修」

○2022年入学生から導入される必修科目(実質運用は2023年からか?)

- ・完全必修は、46年ぶり…昭和46年版学習指導要領(1971年改訂。1973年より施行)
→日・地・世…原則全員履修の学校が多かったため、実質的な必修状態が続いていた
- ・平成6年版学習指導要領(1994年公示)で「地歴科」「公民科」に分断。「世界史」必修「日本史/地理」選択履修化。棲み分け顕著に(地理は理系センター・文系は選択機会なし)
→40歳(2018年時点)よりも下の地歴科教員には、高校で地理を履修していない人が大多数
- ・指導力を疑問視、アクティブラーニングに懐疑的な地理「プロパー」教員と学界↑ギルドの風潮として批判:**「オールドプロパー」が必修地理をダメにする**(伊藤:2017)

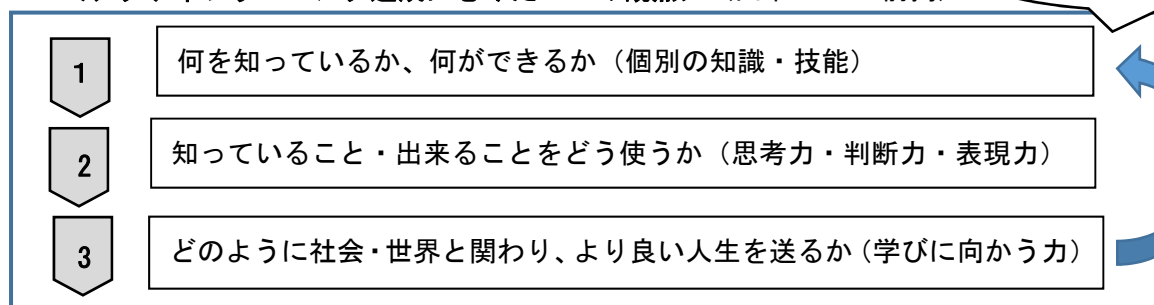
(2) 高校地理とアクティブラーニング

- ・カリキュラムマネジメントに裏打ちされた実践の組み立ての必要性(山本:2016)
→理論に裏打ちされた「教材研究」は歴史に比べると蓄積は少ない。
アクティブラーニングに関する理論的解説 or 実践紹介の二極分化
 - …大いに矮小化された「指導技術」のみが流布する懸念(天笠:2015)
 - …学習指導要領が授業の方法まで指示することへの警戒感(小松:2016)
- 研究者サイド(大学地理学)からの議論と現場への要請(山口編:2016, 碓井編:2018)
- ・アクティブラーニングを指向した高校地理の実践(久保:2015, 2017a, 2017b 松浦:2015)

【課題】・年間計画、単元学習計画への位置づけは十分ではない。

- ・学校の特色や差異(学習者の理解度、予備知識、授業への意欲)を考慮に入れた授業設計と実践が必要=「アクティブ」以前の段階でストップしがちな**底辺校**
- 受験で誘導×/高卒で社会へ/2単位科目/ユニバーサルデザイン教育…**A.Lの最前線**

<アクティブラーニング達成にむけた3つの観点>(山本:2016前掲)



2. 模擬授業 アメリカの地誌

(1) 教育環境

- ・地理 A (2 単位) 3 年生の選択科目 受験科目としての利用はなし。
- ・学力は低い。明確な指示が行われると一生懸命行う生徒もいるが、全くやる気のない生徒もいる。集中力の持続は厳しい。進路決定後、学習に向かう意欲は更に減退。
- ・選択科目なので、地理自体には興味あり。

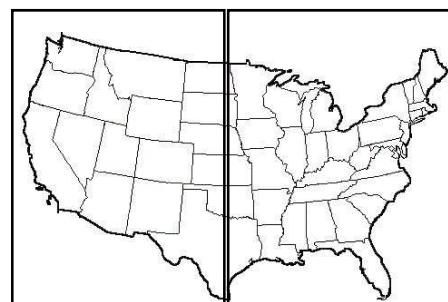
(2) カリキュラムデザインと評価

- ・年間 (約 55 時間 : 2 月が家庭学習に入るため) 「地理 A」の教科書に準拠するが、地誌分野を先行実施(各地域 2 ~ 4 時間) (1 時間目 : 地名知識の定着 2 時間目 論述・地図作業 **3・4 時間目 グループワーク…ルーティン化を図る**)

本日の模擬授業

(3) 用意するもの

- ①教科書・地図帳・資料集
- ②タブレット PC (PDF ファイルで地図画像を収納)
- ③白地図 (アメリカの白地図を拡大印刷 : B4 2 枚で 1 組)
- ④台紙 (4 切画用紙)
- ⑤色マジック・はさみ・のり

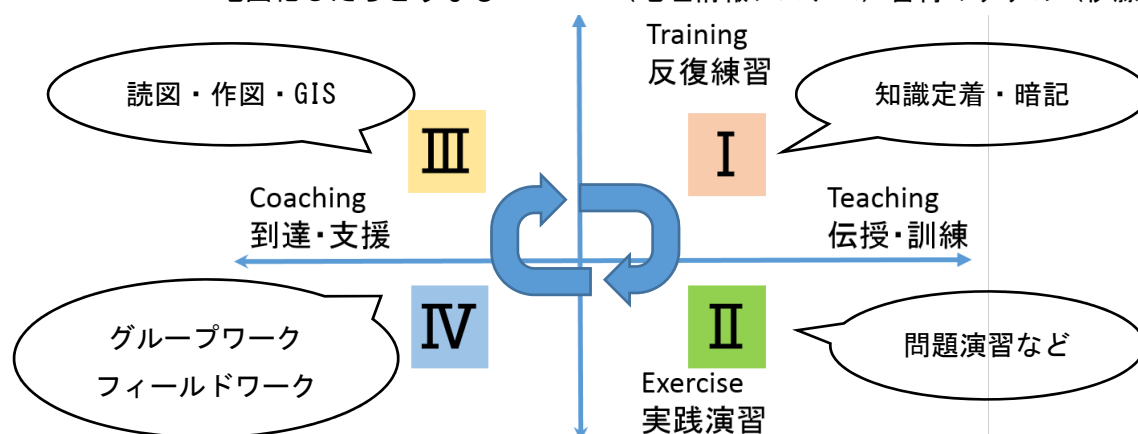


(4) 授業の展開 (実際は 2 時間配当)

	学習内容	生徒の動き	教員の動き
導入 (10 分)	本時の到達目標の説明 教材の配布 班編成	4 人 1 組を作り、教材を置く (白地図・タブレット・ペン)	説明
展開① (70 分)	主題図を 2 枚作成し 地図同士の関連性を 説明する	教科書・資料集・タブレット にあるアメリカの地図を白地図 上に写す。 地図同士の関連性について話し 合い、発表に備える	適宜助言を与える が特定のテーマに 誘導しない
展開② (20 分)	成果の発表 (1 班 2 分程度)	班ごとに成果を手短に発表す る。内容を審査する	表現の工夫や 読みとれること についての問いかけ をする。
まとめ (15 分)	レポートの作成	各自で作成した地図について レポート (400 字程度) にまとめ る。	表現の良い例悪い 例を示し的確に言 語化できるように アドバイスする。

3. まとめと展望

- ・ 毎日出来るアクティブラーニング・・・学びの3観点、学習の4つサイクル（下図）を地道なルーティンワークとして回し続けること⇒I・IIも重要な「ラーニング」
- ・ 地理の指導力・・・教師の知識伝達力⇒生徒に「点検」と「気づき」（ひらめき）を促す力
- ・ 地理「ノンプロパー」受難の時代？・・・「ニュープロパー」になるための戦略的OJT
- 古プロパーとノンプロ若手が組まざるを得ない進学校／若手の「ワンオペ」になる底辺校。
- 我流に頼らず、正しい「教材研究」をすることで、抜きん出た存在になれる。
 - ⇒文献を読み、理論と実践のバランスをとる／カリキュラムデザインの視点を持つ
 - ⇒教科書を丁寧に扱う（読みとらせる、書かせる）／成果を検討し、公的に発表する。
 - ⇒教師自身が「アクティブラーナー」であり続ける。
 - 地図化したらどうなる？・・・GIS（地理情報システム）習得のすすめ（伊藤：2016）



【文献】

- 天笠 茂 (2015) 「アクティブ・ラーニングを実現する学習像」, 教育展望 61(8), pp. 86-97.
- 伊藤 智章 (2016) 『地図化したら世の中が見えてくる』, ベレ出版, 136p.
- 伊藤 智章 (2017) 「必修化に向けた高校地理の改革—現場の実践と地理学教室への期待」, 立命館地理学 29, pp. 11-19.
- 碓井 照子 編 (2018) 『地理総合』ではじまる地理教育—持続可能な社会づくりをめざして』, 古今書院, 208p.
- 久保 哲成 (2015) 「グループワークを通じた地理資料読解力向上への取り組み」, 兵庫地理 60, pp. 47-55.
- 久保 哲成 (2017b) : 「高校地理 B ヨーロッパ地誌でのアクティブ・ラーニング型授業の実践—グループワークとジグソー学習による協同学習の試み—」, 兵庫地理 (62), pp. 117-125.
- 松浦 直裕 (2015) : 「アクティブ・ラーニングを取り入れた東南アジア学習—高校地理 A において」, 地理教育研究 (16), p. 37-42p.
- 山本 實 (2016) 「アクティブ・ラーニング導入にむけての検討」, 地理教育研究 (19), pp. 21~26.
- 山口 幸男 編 (2016) 『地理教育研究の新展開』, 古今書院, 286p.